

# 少年たち サッカーに熱中

6日に開幕した第31回市民タイムス少年サッカー新人戦・カガミカップは、県内の小学生でつくる64チームが優勝を目指して熱戦を繰り広げた。新チームの力が試される新人戦で、各チームの選手たちがそれぞれに練習の成果をぶつけ合った。初戦から果敢なプレーが光り、子供たちが躍動した。  
(荘 隆子)

## 市民タイムス新人戦カガミ杯



勝利をつかもうと全力でボールを追う鎌田サッカースポーツ少年団の選手



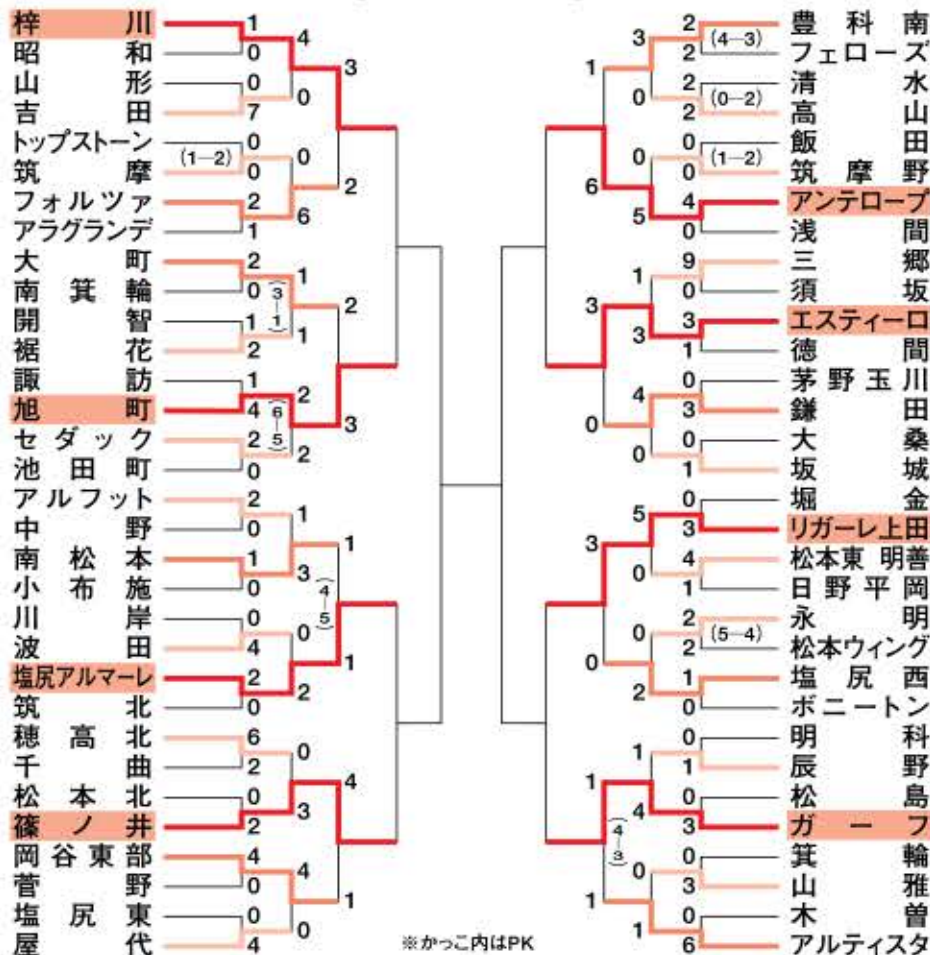
初戦を突破し、仲間と勝利を喜び合う梓川FCの選手たち



1回戦で果敢に相手ゴールを狙う松本山雅FCU-11の選手

## 64チーム 果敢にプレー

### 《1日目の結果》



相手チームの攻撃を防ごうとボールに食らいつく木曾FCの女子選手



選手宣誓の大役を果たした松本清水FCの掛布主将



元気よく試合前のあいさつをする豊科南SCの選手たち



プラカードを手に開会式に臨み、試合への気持ちを高める選手たち



カガミ杯を手に選手たちの健闘を期待する各務社長(左)と市民タイムスの新保力社長

**夢実現のきっかけに**  
優勝杯に思い込める参加64チームの頂点に立った優勝チームへ贈られるカガミ杯。サッカーボールをかたどった優勝杯には大会開催の願いである「サッカー少年に夢を」の思いが反映されている。杯は、31年前の大会スタートに合わせてカガミグループが寄贈したものだ。当時は野球と期待を寄せた。

少年が多く、サッカー人口はまだ少なかった。そんな中、野球の優勝杯に負けなうらみの立派な杯を用意し、勝ち取った子供たちに夢やサッカーの楽しさを伝えたいと作られたという。カガミグループの各務一社長は「アルウィン整備や山雅の活躍でサッカーが身近になった。カガミ杯が夢を表現していくきっかけになれば」と期待を寄せる。



電光掲示板で映し出された飯田選手からの映像メッセージ

**子どもたちへ温かいエール**  
山雅の飯田選手  
開会式では、サッカー1J2松本山雅FCのDF飯田真輝選手からのメッセージが映像と共に伝えられた。飯田選手は、サッカーを通して感じてきた大きき喜びや悔しさ、仲間への期待を込めて、選手一人一人の活躍を語り、日々練習に励む子どもたちへ温かいエールを送った。勝ち負けがあるスポーツの世界の大切な心掛けとして「まずは目の前の相手に負けないこと。その積み重ねでどんどん上を目指していける」と呼び掛けた。